

THE ROOF



佐藤潤四郎
《オブジェ・羊車》
1980-82（昭和 55-57）年頃
ガラス／宙吹・プランツ
当館蔵

Contents

- 企画展「みんなのミュシャ ミュシャからマンガへ—線の魔術」
- 寄稿「雪村と『山水』『風水』」
- 「潤四郎ふたたび」（企画展「日本ガラス工芸の先達たち 藤七、鑛三、そして潤四郎」）
- Report
- Information

みんなのミュシャ ミュシャからマンガへー線の魔術

アルフォンス・ミュシャ（1860—1939）は、アール・ヌーヴォーを代表するチェコ生まれの芸術家です。19世紀末のパリを舞台にグラフィック・アーティストとしての才能を開花させました。彼が手がけた華やかなポスターは、没後80年経った今なお、世界中の人たちを魅了し続けています。繊細かつダイナミック、流麗にして優美なミュシャの描線は、「線の魔術」と呼ぶにふさわしい彼の作風の真骨頂であり、後世のアーティストたちにも多大な影響を及ぼしました。

本展では、ミュシャが手がけたグラフィック作品はもとより、彼の芸術に影響を受けた作品もあわせてご紹介します。また、ミュシャが20代の頃に描いた貴重なイラストや、本人がコレクションしていた書物や工芸品なども展示され、ミュシャの少年時代から、ポスター画家として一世を風靡する1890年代までの足跡をたどることがができます。チェコ・モラヴィアの工芸品や聖像、日本や中国の美術工芸品など、多種多様な美が彼にインスピレーションを与えていたことが窺えます。

ミュシャは生涯、民衆とともにある芸術にこだわり続け、美のもつ力によって人々を啓発する商業デザインを追求しました。そんな中、エレガントな女性の姿に花などの装飾モチーフを組み合わせ、曲線や円を多用しながら構築された独特な構図の形式が誕生します。

ミュシャの没後24年経った1963年、ロンドンで開催された2つのミュシャの回顧展を契機に、それまで忘れられていた彼の業績は、再び光の下によみがえったのでした。当時、既成の概念に対峙する若者文化の中心地となっていたロンドンとサンフランシスコのグラフィック・アーティストたちは、ミュシャ独特のイメージと世界観に共鳴するものを感じ、大きな影響を受けています。1960—70年代にアメリカやイギリスで発売されたレコード・ジャケットやロック・ポスターなどには、ミュシャの作品の影響が顕著です。

日本では明治30年代半ば、文芸誌や女性誌の表紙を、ミュシャあるいはアール・ヌーヴォーを彷彿とさせる女性画と装飾からなるイラストレーション

ンが飾りました。明治時代の歌人・与謝野晶子の歌集『みだれ髪』の表紙には、ミュシャが描いたポスターなどの影響を見ることが出来ます。当時、新しい女性の象徴として、ミュシャの女性像が選ばれたのです。さらに本展では、ミュシャのエッセンスを受け継ぐ日本のグラフィック・アーティストや漫画家の作品を展示します。時代を越えて愛されるミュシャの世界をぜひお楽しみください。（新田量子）



アルフォンス・ミュシャ
《エミール・ゲパール『クリスマスと復活祭を告げる鐘』（パリ、F.シャンブノワとH.ビアツァ出版）1900年 挿絵本
©Mucha Trust 2020



花鳥文七宝花瓶
19世紀後半 有線七宝
©Mucha Trust 2020



4 ジャケット・デザイン：クレイグ・ブラウン
『ジプシー』（ジプシー／メトロメディア・レコード）
1970年 LPレコード・ジャケット
©Mucha Trust 2020

5 表紙デザイン：石川寅治
『新古文林』（明治38年第1巻第3号）
1905年 文芸誌 個人蔵



4

5



3



2



1

1 アルフォンス・ミュシャ《ジスモンダ》
1894年 カラーリトグラフ
©Mucha Trust 2020
2 アルフォンス・ミュシャ
《モナコ・モンテカルロ》
1897年 カラーリトグラフ
©Mucha Trust 2020
3 アルフォンス・ミュシャ
《ヒヤシンス姫》
1911年 カラーリトグラフ
©Mucha Trust 2020

EVENT

要申込

美術講座

1 ミュシャと日本 —『明星』からマンガまで

日時 2021年2月20日（土） 午前10時～
場所 多目的スタジオ
講師 当館学芸員
定員 50名

2 ミュシャのポスター —魅惑のまなざしと花々

日時 2021年2月27日（土） 午前10時～
場所 多目的スタジオ
講師 当館学芸員
定員 50名

参加申し込み方法 ※申し込み多数の場合は抽選となります。

①～④をご記入のうえ、ハガキ・FAX・Eメールのいずれかでお申し込みください。

- ①参加希望美術講座
- ②参加希望者名（1件につき1名様まで）
- ③郵便番号・住所
- ④電話（FAX）番号

応募先

郡山市立美術館「美術講座応募」宛
ハガキ 〒963-0666 郡山市安原町字大谷地130-2
F A X 024-956-2350
Eメール bijutsukan@city.koriyama.lg.jp

締め切り

2021年2月5日（金）必着

企画展

みんなのミュシャ ミュシャからマンガへ—線の魔術 2020/12/12（土）～2021/3/7（日）

開館時間 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日 毎週月曜日（1月11日は開館、翌12日は休館）
および12月28日～1月4日

観覧料 一般／1500（1200）円
高校・大学生、65歳以上／900（720）円
※（ ）内は20名以上の団体料金

中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料

主催 みんなのミュシャ展実行委員会、郡山市立美術館
福島中央テレビ、福島民友新聞社、ミュシャ財団
後援 チェコ共和国大使館、チェコセンター
チェコ政府観光局
協賛 大成建設、光村印刷、損保ジャパン
協力 日本航空、日本通運
企画協力 NTVヨーロッパ

雪村と「山水」「風水」

玄侑宗久（作家・福聚寺住職）

8月29日から9月27日まで開催された企画展「郡山の美術『今昔秘話展』」雪村を中心に「の関連イベントとして、9月22日に福聚寺（三春町）住職・玄侑宗久さんにご講演いただきました。

先日、美術館で行なった講演内容を、不完全ながらもまとめてみたい。

9月22当日は恰度お彼岸の中日。あちこちに彼岸花が咲き、雪村を語るにはまさに恰好の日だったと言える。というのは、彼岸花が全国一斉に咲くのは、地球と月と太陽の特殊な位置関係に依る「地磁気」を感じてのことらしい。雪村の生涯を通じてのテーマも、おそらく「気」ではないかと思えるからである。

「山水」画は、禅や禅僧たちが中国からもたらした。雪村が生きた室町後期は、禅がさまざまな分野に法衣ほうえを脱いで浸透した時代。つまり、お茶、お花、能楽、そして山水画など、親しみやすい文化的な姿で多くの人々の生活に這入り込んだのである。

山水画とはいったい何か、と考えてい

くと、禅だけでなく、むしろ道教的な世界観に辿り着く。つまり宇宙の「元氣」が根源にあり、それを山がまず受けとめ、そこから水と共に流れくる生氣が人も動物も野菜をも活かしめる、という生命観である。「天人相関」「地人相関」と言い、天地とあらゆる生命は気によって繋がっていると考えるのである。

山水画では、よく「氣勢」とか「氣韻」などと表現されるが、彼らが描こうとしているのは個物そのものではなく、その繋がりと流れ、即ち相関の在り方ではないだろうか。

ここには仏教の「縁起」思想も大きく関与している。「諸法無我」とも言うように、仏教では繋がりと関わりを無視した単独の「我」など無いと見る。それはデカルトの言う「我思う、ゆえに我あ

り」の「我」と好対照である。あちらでは「場」の及ぼす力にほぼ無頓着なのに対し、こちらでは「場」によってこそ「私」が成り立つと考える。これは中国由来というより、もとより八百万の神にも表れている。阿蘇や伯耆ほうぎの噴火口に現れた大穴牟遲神おおなむぢのかみが、出雲の国造りでは大國主神と呼ばれたように、場所と仕事で名前まで変わったではないか。

そうした基盤のある日本に、中国から元々「周礼しゅうらい」にある都市形成のための理論だが、やがて道教的な人々に珍重され、「隠里」や「桃源郷」を求めるとの理

屈としても援用されるようになる。朱子によって体系化されたこの理論は、陰陽五行説と方位学を合わせた当時の科学だが、その頃の日本では足利学校で学ばれ

ていたようだ。東日本で当時の最高学府とされた足利学校に、雪村自身が行ったとは考えられないが、周囲には多くの臨済僧がいた。「風水」は当時の臨済僧のトレンドだったはずである。

簡単に言えば、良い気の溢れる良い場所に住めば、生氣も横溢し、大人物になる、という考え方だが、これは都市形成理論として発生し、平城京や平安京にいられたばかりでなく、城や墓、あるいは神社仏閣を建てる場所選びにも用いられるようになる。

こうして私が「風水」に拘るのは、何を隠そう雪村庵こそ、「風水」上最高の場所に建っているからである。あの場所を選定したのが、雪村自身なのか、それとも師匠となった福聚寺七世鶴堂かくどうせんぢ仙央なのかは判らない。しかし三方を山に囲ま



雪村周繼《山水》
墨・紙／軸
福聚寺蔵



雪村庵

れて南面し、東から西へ清流がそそぐあの庵の建つ場所はまさに龍穴。生気の溢れ出る場所ではないか。

本来、西の山は中国では崑崙山脈を象徴し、宇宙の元気が最も注がれる場所とされる。京都ならさしずめ愛宕山だが、「崑崙」と「渾沌」との音通からそこは全てが生まれ出る場所であると同時に帰り行く場所でもある。西の山から龍脈を通って流れる生気は一旦中央部（龍の腰部）で滞るのだが、そこに漢方医が鍼を刺す要領で建物を建て、生気を溢れさせるのである。京の都ではまさに紫宸

殿のある場所に雪村庵は建てられ、しかも庭前には「風水池」とも呼ばれる池が造られた。雪村の没後にこの地を訪れた一元紹碩も、「長年探し求めていた場所」だと言って喜び、此の地に庵を再建するのだが、一元がこれほど気に入ったのも風水の価値観に依ることは間違いないだろう。おそらく雪村はこの地を終の栖と定め、晩年は生気を存分に受けつつ旺盛な創作を続けたのだろう。山水の小品では蓬萊山を想わせる絵も多いが、これまた崑崙と並ぶ風水上の要地である。

雪村は仙人のほか、竹林の七賢人、寒山・拾得、五柳先生（陶淵明）など、多くの隠者を描いた。また鯉に乗る琴高や龍に乗る呂洞賓も印象的だが、もしかすると隠者として徳を積み、最後は布袋和尚のように布施行に励み、遂には仙人になつて龍に乗り、崑崙（渾沌）に戻れると信じていたのではないだろうか。

郡山市立美術館所蔵の四季山水図にも、雪村晩年の旺盛な気を感じる。環境景観学が専門のフランスの文化地理学者オギュスタン・ペルクは、日本人にとつての「風景」は単に背景や野生の空間ではなく、その全体が「いかにおはす」という表現だと、卓見を述べている。まさにそのように、四季山水図には大自然から「気」を受け、日々の生業に励む小さな人間存在の、儂い、しかし愛おしい姿

が描かれていると思える。やがて還るべき崑崙も左側に峨々と聳えており、雪村晩年の「いかにおはす」の表現に違いない。もしかすると、自画像の賛にある「興尽きて棹を回し去るに如かず」も、そろそろ此の世の楽しみも尽くしたし、背後の崑崙に還るべきかとの心境吐露ではないか。

「龍と虎」は陽・陰の代表だが、「柳に鷺」や「竹に蟹」、「竹に雀」、「菊に蟬」なども、陰陽の気をそれぞれに生きる小さな命たちへの賛歌に見えてくる。鶉や雀、鶺鴒、猿、馬はもちろん、野菜にさえ雪村の敬意を感じるの私の錯覚だろうか。

気で繋がったあらゆる命たちは独立しながら連動する。それは「華厳」と言われる仏教思想に通じる見方である。「雑華嚴飾」が縮まって「華嚴」になつたとされるが、「雑華」の「雑」とは「純」の反対語ではなく、すべてを「雑」と見て、序列を認めないのだ。「雑華」は「普通の花」と言い換えてもいい。みんな「雑」でみんな「普通」の命たちが、それぞれに生気を巡らし、連動しながら変化するダイナミズム。だからこそ雪村が描き続けたものではないだろうか。

雪村の書き残した数少ない文字である「潭底月」は、「月は潭底を穿つて水に痕なし」という禅語に由来する。さまざま

まな解釈が可能だが、鈴木大拙翁はこれを華嚴思想の象徴と見る。毘盧遮那仏の白毫から発し、障礙なくあらゆる衆生を照らす光の如くありたい、ということだろうか。ならば盗難に遭つた雪村庵のご本尊も観音菩薩ではなく、宝冠釈迦如来（＝華嚴宗の毘盧遮那仏）の可能性あり、ということになるが、この件についての検討はまたの機会を期したい。雪村は観音や達磨は描きながら、たぶん釈尊は一枚も描いていない。なぜか、と最後に問にかけておこう。



企画展

郡山の美術「今昔秘話展」～雪村を中心に～
2020年8月29日（土）～9月27日（日）

潤四郎ふたび

鈴木誠一（当館館長）

1993（平成5）年、郡山ゆかりの作家を採りあげた最初の企画展として「窯と祈りとガラスの神々」佐藤潤四郎展」が開催されました。潤四郎とともに各務鑛三かがみこうぞうの下で活躍していた人の作品も数点出品しましたが、大筋潤四郎の今回回顧展的な展覧会でした。

あれから27年の月日が流れました。再び潤四郎を採りあげるにあたり、前回とは違う切り口を考えました。そもそも潤四郎の最大の特徴は、というところ「温かいガラス」とか「柔らかいガラス」と言われる、それまでの「冷たい」とか「硬い」というガラスのイメージを塗り替えた作風です。それはガラス工芸を芸術として認めさせた岩田藤七いわたふじしち、各務鑛三に続く日本ガラス工芸史の革命でした。藤七、鑛三に続いて潤四郎を採りあげることその功績を検証し



1



2



3

- 1 佐藤潤四郎
「クリスタルガラス花器《星座》」
1964（昭和39）年頃 個人蔵
- 2 佐藤潤四郎デザイン／カガミクリスタル株式会社製作
「手吹きウイスキーボトル《スーパーニッカ》
東京五輪1964モデル」
1964（昭和39）年頃
ニッカウキスキー株式会社蔵
- 3 佐藤潤四郎
「仏足跡」
1984（昭和59）年 全龍寺蔵

ようというコンセプトのもと、この企画展を組みあげました。三人の名前に数字がついていたのは偶然です。それにしても、藤七、鑛三と比較することで潤四郎の特徴が明確になってきました。逆に潤四郎と比べることで、藤七と鑛三の良さも理解できると感じました。

潤四郎は当初ガラスメーカーの上司でもある鑛三との違いを引き出すため、かなり苦闘したようです。また、藤七のような大胆で色彩にあふれたものではなく、奇をてらわれない、使い勝手の良さともダンなデザインとを融合させています。

その結晶というべき作品が「手吹きウイスキーボトル《スーパーニッカ》」

初号モデル」です。単純で穏やかなフォルムは多くの洋酒ファンのみならず、多くのデザイン関係者から高い評価を受けています。もっとも高く評価したのが、このボトルの見本を見るなり、抱きしめて手放そうとしなかった、《スーパーニッカ》の生みの親、マッサンこと竹鶴政孝でしょう。あの朝ドラでは描かれなかった、もうひとつのドラマがここにあるのです。

企画展「日本ガラス工芸の先達たち

藤七、鑛三、そして潤四郎」

2020年10月10日（土）

～11月23日（月・祝）



表紙の
作品

佐藤潤四郎
《オブジェ・羊車》

1980-82（昭和55-57）年
ガラス／宙吹・プランツ

17.8 × 12.5 × 19.0 cm
当館蔵

郡山市出身のガラス工芸家、佐藤潤四郎の作品です。潤四郎は、自分の干支である羊の造形を好み、モチーフとしてたびたび作品にしています。本作品は、クリスタルガラス特有の透明感にまろやかな質感を巧みに引き合わせ、美しくも親しみやすいたたずまいが印象的です。鼻と胸部、そして車輪にあしらわれた模様には、プランツという技法が用いられています。

Report

企画展「うるわしき美人画の世界」

会期：2020年6月27日～8月23日



関連イベント

対談「木原文庫の魅力」

2020年8月1日（土）

講師：木原真人さん（医師、コレクター）
上菌四郎さん（笠岡市立竹喬美術館顧問）

場所：多目的スタジオ

本展監修者である上菌さんに出
品作家や時代背景について解説
していただきながら、コレク
ター・木原さんに作品や収集に
ついての思いなどをお話しいた
できました。



企画展「郡山の美術『今昔秘話展』 ～雪村を中心に～」

会期：2020年8月29日～9月27日



関連イベント

特別講座「油彩画の修復 ～所蔵作品を通して」

2020年9月19日（土）

講師：富山恵介さん（修復研究所 21）
場所：多目的スタジオ

油彩画の構造を図解し、その修復について、
本展出品作品における実例を交えながら、
方法や道具、作業の流れについて解説して
いただきました。



講演会「雪村庵と福聚寺」

2020年9月22日（火・祝）

講師：玄祐宗久さん（作家・福聚寺住職）
場所：多目的スタジオ

雪村と山水、雪村庵と風水、さらに三春と
の関係を解説していただくとともに、僧侶
としての雪村という視点から、彼の人物像
を浮かび上がらせる内容でした。



常設展示のご案内

2021年1月24日（日）まで

- 1 19世紀末イギリス美術
- 2 原撫松と牧野義雄
- 3 郷土ゆかりの美術
- 4 本の美術・日本篇 / 美と用の調和

2021年1月27日（水）～

- 1 小特集：イギリスの挿絵
- 2 人物を描く
- 3 グラフィック・アートの魅力
- 4 ショーラムのエインシャンツ / 工芸のデザイン



2021年1月24日までの展示風景

※ 2021年1月26日（火）は展示替えのため
常設展示室はご覧になれません。

Information

第12回

風土記の空

～郡山市内の中学校美術部による作品展～



10月20日(火)～11月23日(月・祝)

場所：美術館ロビー（入場無料）

主催：郡山市立美術館

郡山市内の中学校の美術部の活動で制作された、個性豊かな作品が並びます。みずみずしい感性にあふれた力作を、ぜひご覧ください。

出品校：日和田中学校、行健中学校、守山中学校、郡山第五中学校、小原田中学校（計5校）

休館のお知らせ

諸設備点検等のため、下記の期間を休館とさせていただきます。

2020年11月28日(土)～12月2日(水)

2020年12月28日(月)～2021年1月4日(月)

2021年3月8日(月)～3月31日(水)

ご利用の皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、ご理解、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



新型コロナウイルス感染症対策について

みなさまのご理解とご協力をお願いいたします



- ・発熱、呼吸器症状（咳など）のある方は入館をご遠慮ください。
- ・団体でご来館の際は事前予約をお願いします。
- ・混雑する場合は入場制限をすることがあります。

TOPICS



130 CAFE
ジュジュイチサンマルカフェ

営業時間／11:00-17:00
電話／024-942-2250

あたたかいアップルパイ バニラアイス添え

単品 ¥610 ドリンクセット ¥1,030

シナモンを効かせたりんごを
丁寧に折り込んだパイ生地に包み
風味豊かに仕上げたアップルパイに
溶けたバニラアイスに絡めて
お召し上がりください。

メニューや料金、営業時間は予告なく変更となる場合がございます。
あらかじめご了承ください。



郡山市立美術館
Koriyama City Museum of Art

発行日／令和2年11月12日

〒963-0666 福島県郡山市安原町字大谷地 130-2
TEL.024-956-2200 FAX.024-956-2350
<https://www.city.koriyama.lg.jp/bijutsukan/>

敷地内禁煙



紙へリサイクル可
この紙はFSC®認証紙です。